

宇宙航空研究開発機構における令和6年度、第4期中長期目標における業務実績に関する評価に対する意見(案)

・前向きな意見 / ✓慎重な意見 / ◆今後の課題や期待

1. 経済産業省所管の評価項目に係る意見

○宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施[Ⅲ.3]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

各論へ記載

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

各論へ記載

(1) 準天頂衛星システム等 [Ⅲ.3.1]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

- ・ MADOCA 関連の成果(LHTC 社による運用開始、後のせへの寄与)は大きいと思うが、あまりアピールされていないように思われる(開発フェーズではないためか)。評価は A で良いと思うが、顕著な成果としてハイライトしてはどうか。
- ・ 自己評価自体は適切。実績紹介において、技術開発面に重きが置かれている印象をうけた。「民間事業者による高精度測位情報サービスの事業化の支援」についても十分に強調いただけるとありがたい。
- ・ 自己評価は適切である。IGS 精密暦との整合性が下位から中上位へと向上、標準偏差で約 43% 低減する、等実績が目に見える形で認識できたかと思います。
- ◆ 7 機体制での運用の安定化を目指すと共に、耐ジャミング性向上が急務である。
- ◆ 6 号機検証は進行しているとのこと、次回 5-7 号機の総合検証が済んだことが確認できれば S が見えてくると思いますので引き続きお願いします。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ・ 自己評価自体は適切。実績紹介において、技術開発面に重きが置かれている印象をうけた。「民間事業者による高精度測位情報サービスの事業化の支援」についても十分に強調いただけるとありがたい。(再掲)

- ◆ 11機体制構築を見据え、システム・サービスの高度化ビジョンを明確化し、技術実証成果の積極活用を図る必要がある。

(2)次世代通信サービス [Ⅲ.3.5]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:S】

- ・ LUCAS のフルサクセスを前倒しで達成できたことは素晴らしい。
- ・ 光データ中継衛星での実績は大変素晴らしい。
- ・ 波長 1.5 μ m 帯通信として世界最高速の通信速度等の標榜できる客観的に目に見える成果が出ており大変素晴らしい。
- ◆ ETS-9 の打ち上げ・運用を確実に実施し、フルデジタル通信技術などの実証結果を今後の衛星通信サービス強化に繋げる必要がある。
- ◆ ETS-9 の技術的優位性や実証の必要性を示す客観的なデータ(世界的な技術発展の動向、民間衛星や他国衛星の開発状況)が欲しい。
- ◆ 戦略基金でも強めに予算配分されていく領域で社会実装の期待も大きいため、JAXA の研究開発成果を民間の事業者が社会実装を加速できるよう活動支援・協働も引き続きお願いしたい。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:B/JAXA 自己評価:B】

- ・ ALOS-4 との通信確立など顕著な成果があったことから、A 評価に上げててもよいのではないか。
- ・ LUCASを利用して世界最速の衛星間光通信 1.8Gbpsに成功したこと、静止衛星経由で観測データを地上局へ初伝送し、実用レベルの光衛星間通信技術を獲得したことは、国際競争力のある社会実装に寄与する大きな貢献であり、少なくともA評価とすることが妥当ではないか。
- ◆ 光衛星通信などで顕著な成果を上げた流れを受け、宇宙通信分野における我が国の競争力をさらに高めるよう、引き続き更なる技術開発と成果創出に取り組んでいただきたい。
- ◆ 国際競争力を有する成果を創出した光衛星通信に、追加的にあるいは優先的に資源を配分することが一案か。

(3)リモートセンシング [Ⅲ.3.6]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:S】

- ・ ALOS-4 および EarthCare の運用開始により、顕著な成果が現れている。

- ・ 災害発生時等の衛星観測データの提供において、特に国外からの観測要請が昨年度から大幅に増加(29件→81件)した点は、社会実装及び国際プレゼンス向上の点で高く評価しうる。
- ・ 気候変動、農業、水産での利用や、だいち4号取得データの民間事業者(天地人、PASCO等)への配布等、社会実装が進められている点も素晴らしい。
- ◆ 温室効果ガス観測や気候変動・防災分野への衛星データ活用を拡大するため、関係府省・自治体・民間企業と連携し観測成果の社会実装を促進してほしい。
- ◆ 今期は、本来であれば ALOS-3 の運用期間となるはずであったが、ALOS-3 で達成しようとしたミッションについてはすでに他ミッション(HISUI)や民間(光学)に引き継がれたという理解でよいのか。また、実証が必要なミッションはないか。
- ◆ 社会実装が一層すすむべく、社会実装を進めるうえでの課題と、それを踏まえたミッション設計へのフィードバックの流れがあるとなお良いか。
- ◆ J この技術をダウンストリームでより広く使ってくれるステイクホルダーを如何に巻き込んで如何に広げる(広げてくれる仲間を広げる)のか、以降の計画に織り込んでフォローアップしていくのも一案か。
- ◆ 準天頂衛星システムや宇宙輸送に関しては開発中案件の記載があるものの、リモートセンシングについては研究開発中の案件に関する記載がない。研究開発に関係する項目を追加いただき、成果や課題リスクなどを示していただきたい。
- ◆ リモートセンシングは他項目と比較しても多数の領域・案件が含まれており、それぞれの分野を正しく評価するためにも、項目を細分化することを考慮してはいかがか。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:S/JAXA 自己評価:S】

- ・ 気候変動分野、防災分野、農業分野での貢献は顕著である。
- ・ 災害発生時等の衛星観測データの提供において、特に国外からの観測要請が昨年度から大幅に増加(29件→81件)した点は、社会実装及び国際プレゼンス向上の点で高く評価しうる。(再掲)
- ・ 気候変動、農業、水産での利用や、だいち4号取得データの民間事業者(天地人、PASCO等)への配布等、社会実装が進められている点も素晴らしい。(再掲)
- ◆ 気候変動対策や災害対応など衛星データ利用ニーズの拡大に応えるため、例えば将来アーキテクチャ検討などにおいてもニーズベースを取り入れつつ、官民で適切な体制を整える。

(4)人工衛星等の開発・運用を支える基盤技術(追跡運用技術、環境試験技術等) [Ⅲ.3.7]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

- ・ Mt.FUJI の実用化は大きな成果。
- ・ ITU や APRSAF における関係構築などは、成果の評価が困難であるが JAXA のプレゼンスを高める重要な活動である。
- ◆ 追跡局アンテナ等の更新計画を進め、近地球向けの追跡業務は民間サービス導入で補完しつつ、美笹深宇宙局の機能強化によって今後も安定運用できる体制を構築していただきたい。
- ◆ 追跡管制や試験設備の民営化の成果について、フォローアップを期待する。
- ◆ 「宇宙機一般試験標準ハンドブック」において、システム熱真空試験におけるサイクル数を4サイクルから 1.5 サイクルまで短縮可能と定めたことは、産業化を見据えた取組として高く評価しうる。今後もぜひ継続いただきたい。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ・ 試験設備の外部試験件数は顕著に増加しており、PPP 的手法による利用拡大に貢献している。
- ◆ 保有設備のスリム化を図る中でも、JAXA が培ってきた追跡運用・試験設備等の技術・ノウハウを長期的視点で維持・発展させる必要。
- ◆ 「宇宙機一般試験標準ハンドブック」において、システム熱真空試験におけるサイクル数を 4 サイクルから 1.5 サイクルまで短縮可能と定めたことは、産業化を見据えた取組として高く評価しうる。今後もぜひ継続いただきたい。(再掲)

(5)宇宙科学・探査 [Ⅲ.3.8]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:S】

- ・ SLIM のエクストラサクセス達成、XRISM による高温ガスの観測、デトネーションエンジンの実証成功など、顕著な成果があった。
- ✓ 理由はやや違和感がある。越夜で月面環境のデータ獲得ができたこと自体は世界的にも大変素晴らしい成果であるものの、評価基準との関係では、もともと狙ったわけではなく成行で手に入ったものが、24 年度評価の冒頭に記載されるものではないように感じる。むしろもともと狙っていたものの成果が着実に出たことを最前面にし、越夜は「更に」という位置付けが適切ではないか。
- ◆ SLIM で得られた高度な知見などを民間に積極提供し、若手育成も図りながら新たな科学探査プロジェクトの創出につなげていただきたい。
- ◆ MMX に関する記述が少なかったように思う。打上げ時期が遅れたことや所掌変更の影響はどの程度か。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:S/JAXA 自己評価:S】

- ・ S 評価は妥当である。
- ◆ 当該分野で培った技術を産業競争力強化にも結びつける視点を持ち、民間連携を推進するとともに、独創的・先端的なプロジェクトを実施できる体制を整えていただきたい。

(6)月面における持続的な有人活動 [Ⅲ.3.9]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

- ・ 実施取決めの締結などのソフト面の整備も進んでおり、評価できる。
- ◆ 有人与圧ローバの開発について、適切に成果と課題を評価すると共にリスク低減を図りながら、スケジュール遅延やコストの増大を抑えながら着実に進めていただきたい。
- ◆ ECLSS に関する記述がほとんどなかった。進捗を共有していただきたい。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ・ アルテミス計画の実現に向けて、着実に事業を実施していることは評価できる。
- ◆ 非宇宙領域などの優れ先端技術・リソースを積極活用し、参画主体の裾野拡大を図ってほしい。
- ◆ 米国現政権下での方向性が不透明ではあるが、このようなタイミングでこそ、次期計画では長期安定的にコミットする日本の姿勢を国際的に示し、より一層国際プレゼンスを向上させることも一案か。

(7)地球低軌道活動 [Ⅲ.3.10]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:B】

- ・ B 評価は妥当である。
- ◆ 医学系指針の不適合事案を踏まえた再発防止策を継続し、重要分野である医学系実験のさらなる推進を図って頂きたい。
- ◆ 民間の活動による部分が大きく、JAXA の貢献が見えにくい分野。JAXA の貢献部分や、枠組作り・利用促進における成果がわかるような工夫があるとよい。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ・ 再突入カプセル技術は、JAXA らしい丁寧な開発の成果

- ◆ ポスト ISS に向け、JAXA におけるこれまでの知見の民間への積極提供、他分野での利用拡大にもこれまで以上に取り組み、産業の競争力強化に繋げていただきたい。
- ◆ 2030 年での ISS 退役、民間モジュールへの移転が予定される一方、米国でもどの民間事業者へ委託されるか不透明な中で、かつ米国現政権下 JAXA としての次期計画を立てることは非常に難しい。米国側での方向性が見えてからの変更・見直しを前提とした次期計画を立案することもあるか。

(8)宇宙輸送 [Ⅲ.3.11]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:B】

- ・ H3 の安定運用は、非常に喜ばしい。イプシロンの燃焼異常がなければ A 評価でもよかった。
- ・ H3 ロケットの 3-5 号機の高精度での連続打ち上げ成功、これに伴うユーテルサット社やUAEからの商業打ち上げ受注は高く評価できる。
- ・ イプシロンロケットにおける第2段モーターの再地上燃焼試験における燃焼異常はありつつも、全体としてA評価と認めうるのでは。
- ・ H3 の順調な運用、不具合の減少等安定フェーズに無事入られたのは素晴らしい。
- ◆ H3 打ち上げ成功を踏まえ、信頼性向上と継続的な打ち上げ実績の蓄積により早期にバランスの取れた運用体制を確立していただきたい
- ◆ 打ち上げ失敗を低評価とするのではなく、失敗後の原因探求などのリカバリーの状態も評価すべき。H3 初号機打ち上げ失敗からのリカバリーへの早さが、むしろ信頼度の向上につながったのではないかと思う。
- ◆ 高難易度なチャレンジをして表面上のマイナスで評価して終わりにはされたくなく、次回評価サイクル時にはレッスンを活かすことの質とスピードがよければ次年度以降プラスに評価できるような材料を揃えていただきたい。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:B/JAXA 自己評価:B】

- ・ H3 ロケットの 3-5 号機の高精度での連続打ち上げ成功、これに伴うユーテルサット社やUAEからの商業打ち上げ受注は高く評価できる。(再掲)
- ・ イプシロンロケットにおける第2段モーターの再地上燃焼試験における燃焼異常はありつつも、全体としてA評価と認めうるのでは。(再掲)
- ◆ 基幹ロケットの継続運用に向けて技術の蓄積・成熟を図ると共に、将来需要の変化への対応のため、継続的なロケット開発機会の確保や体系的な技術の継承に取り組んでいただきたい。

○宇宙政策の目標達成に向けた分野横断的な研究開発等の取組 [Ⅲ.4]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

各論へ記載。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:S/JAXA 自己評価:S】

各論へ記載

(9)民間事業者との協業等の宇宙利用拡大及び産業振興に資する取組 [Ⅲ.4.1]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:B】

- ・ KPI を達成していること、重要なビジネス領域において事業化が進んだこと、MADCOCA-PPP などの JAXA 固有技術の転用が進んでいることから、より高い評価で良いのではないかと。
- ◆ JAXA に蓄積された民間協業ノウハウの体系化や、支援プログラムの充実により多様なプロジェクトへの支援を一層強化していきたい。
- ◆ 事業化後のフォローアップがあるとよい。
- ◆ J-SPARC の関わり方が不明な部分があったため、J-SPARC が関わっているのであれば本成果につながると考えるし、J-SPARC が関わらずに各事業部で対応しているのであれば、あり方含めて自己評価の判断を行いたい。

【第4期中長期目標期間実績評価】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ◆ JAXA だからこそ可能になるような、例えば先端技術を有する有望企業への支援などに先行して取り組む。また、宇宙戦略基金の始動に伴い、これまでの産業振興策との連携をさらに強化し、JAXA 全体として協業に取り組む姿勢が必要。

(10)新たな価値を実現する宇宙産業基盤・科学技術基盤の維持・強化(スペース・デブリ対策、宇宙太陽光発電含む) [Ⅲ.4.2]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:S】

- ・ MPU の開発および ADRAS-J のフルレンジ RPO 技術獲得は、非常に大きな成果である。
- ・ パートナーシップ契約を実施したこと自体も高く評価しうる。
- ・ CALLISTO や RV-X などスケジュールの遅れはあるものの、最終目標に影響しないスケジュールの遅れでその方が研究開発の価値が高まると判断されるものであれば評価に影響しないと考え

- ◆ 大型デブリの定点観測等の快挙を次の実証段階であるデブリ捕獲・除去の成功へと発展させ、国際的な技術的リードを維持強化すべき。また、完成した国産 MPU やホールスラストといった基盤技術を早期に実ミッションへ適用し生産・供給体制を確立することでサプライチェーン自立性を高めるべき。
- ◆ 個別の研究開発と本項の対象となる事業をどのように区分しているのか。JAXA の活動自体が将来的には民間による活用を想定する場合は、ほとんどの事業が基盤につながるのではないか。
- ◆ 新たな調達方法の模索も、JAXA 全体として評価項目にいれるとよいか。
- ◆ 研究開発は JAXA 及び国力のためには必須の項目だと考えるため、評価については、他項目と異なり目先の評価軸ではない評価を行うことが必要と理解している。
- ◆ 現状の研究開発状況に加え、例えば、この部門のこの成果については、研開部門がこの時期に研究開発した案件であるという形で、情報提供していただくことを期待する。

【第4期中長期目標期間実績評価】【主務大臣見込み評価:S/JAXA 自己評価:S】

- ◆ 今期の成果について、継続的に世界を先導する技術的優位性を確保することが求められる。また、重要部品の国産化によって得られた成果を基盤に、サプライチェーンの自立性・強靱性を一層強化する。
- ◆ 新たな調達方法の模索も、JAXA 全体として評価項目にいれるとよいか。(再掲)

○6. 戦略的かつ弾力的な資金供給機能の強化[Ⅲ.6]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:B】

- ・ 自己評価は適切である。戦略基金の 100 名規模の運営体制を構築して運用がスムーズに始まったこと自体が大きな成果かと思います。
- ◆ 新設の基金関連部門において迅速かつ的確に案件の審査・支援を開始し、効果的な資金供給モデルを実証するとよいのではないか。
- ◆ 宇宙戦略基金については、宇宙技術戦略と各省の実施方針が存在する。JAXA 固有の役割と評価ポイントを絞ってほしい。

【第4期中長期目標期間実績評価】【主務大臣見込み評価:B/JAXA 自己評価:B】

- ◆ 宇宙戦略基金の迅速な運用と明確な KPI 設定による成果創出が重要であり、スピード感を持って推進する姿勢が求められる。また、運営についてはオープンかつ公平なマネジメントを徹底するとよいのではないか。

○7. 宇宙航空政策の目標達成を支えるための取組[Ⅲ.7]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

各論に記載

【第4期中長期目標期間実績評価】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

各論に記載

(11)国際協力・海外展開の推進及び調査分析[Ⅲ.7.1]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:S】

- ・ 実施取決めにおける歴史的合意や国際会議におけるリーダーシップは非常に大きい。
- ・ 表に見える米国政府との発表は大変すばらしい成果であったと思う。
- ✓ 月面における持続的な有人活動の評定は A であり、同内容を評価理由にあげている本項目も同じ評定として A に下げるべきではないか。
- ◆ アルテミス計画や各国との協力プロジェクトを着実に進め、国際標準化活動にも民間企業と連携して積極的に参画いただきたい。
- ◆ JAXA の持つクリーンなイメージ、リーダーシップ、交渉における外交力を維持・増大させるための取組を強化すべき。
- ◆ 翌年度以降は、衛星データ利用に関する国際ルールメイキングを主導したなど、国力強化につながる対応にも期待する。

【第4期中長期目標期間実績評価】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ・ FY2024 の成果からすると、とくに評価を引き下げる事情は見当たらない。同様に S 評価で良いのではないか。
- ◆ 機関間の連携だけでなく、民間企業と連携した海外展開や国際協力の成果について、社会課題解決や技術革新、宇宙産業振興といった観点で具体的な成果に結びつける意識を組織全体で持つことが求められる。

(12)国民の理解増進と次世代を担う人材育成への貢献[Ⅲ.7.2]

【令和6年度業務実績評価】【JAXA 自己評価:A】

- ✓ 評定理由の「(2)活動結果」を確認する限り前年と比較して低下が見られることから、B に下げべきではないか。個人の考えとして、研究開発とは異なり、広報活動は結果が全てだと思うので、前年比と比較して数値的に上回る成果が無い限りは着実な業務運営と判断したいと考える。
- ◆ 例えば ISS からのリアルタイム講座配信や宇宙教室など双方向型の手法も充実させ、そもそも宇宙に関心の薄い層も含め宇宙への興味関心を喚起する工夫を強化いただきたい。
- ◆ 具体的にどの分野に関心があるのか、提供される情報以外にどのような情報を求めているのか、国民の関心や意見が今後の計画に反映されることはあるのか、といった情報があると良い。
- ◆ 次世代を狙う人材育成への貢献のモニタリング指標として、「航空宇宙系学部への進学を希望した学生数」を継続モニタリングする等、社会全体で次世代人材がどの程度育っているかを継続的に集計するのも一案。
- ◆ 目的関数とその指標の計測の紐付けに曖昧性が残る印象。JAXA という組織が国民に広く存在意義を認知、理解、応援してもらうことを目的にするものであるか、JAXA の特定のミッションについてサポーター、ベンダーを増やすことを目的にするものであるか、将来の宇宙産業の担い手にとっての就職機会をアピールすることを目的にするものであるか等、目的関数によって、とるべき行動と、かけるべき予算、計測すべき KPI 等、異なるはずですが、B にマスの新聞広告が必要なのか。
- ◆ 広報活動については、年度ゴールを元に明確な KPI を設定していただき、その結果を元に自己評価の判断を行いたい。

【第4期中長期目標期間実績評価】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ◆ 宇宙に関心が薄い層にも宇宙を自分ごととして捉えてもらえる取組みなどにより裾野を広げ、将来を担う人材の拡大に繋げていくことを期待。

2. 法人全体の評価に係る意見

以下のような高く評価する意見があった。

【令和6年度業務実績評価】

- ・ 前年度からの課題を克服しつつ計画以上の成果を挙げたものと思量。輸送や探査分野での成功などにより国民の信頼も回復し、国際的プレゼンスも向上。総じて単年度業績として高く評価できる。
- ・ 高い技術開発力に加え、2024 年度においては、「宇宙機一般試験標準ハンドブック」の過剰仕様の見直しや、「パートナーシップ契約」等の新たな調達手法にも取り組まれる等、社会のニーズに適時適切に取り組んでおられる点、高く評価しうる。
- ・ H3 の安定運用や SLIM の成果など、大きな成果があった。
- ・ EarthCARE や光衛星間通信システムの世界最高性能の実現など長年の研究開発をもとにした素晴らしい成果が多数発表された年だった。また、宇宙は開発時間も長く、コストもかかるため民間事業者の参入が難しい中、産業の自立的発展への貢献を目的とした活動も着実に進捗していることは JAXA 職員の努力の結果である。

【第4期中長期目標期間】【主務大臣見込み評価:A/JAXA 自己評価:A】

- ・ 当該期間の実績は総じて高く評価でき、当初の目標を着実に達成できたものと思量。国内外からの信頼も向上し、日本の宇宙活動を牽引する成果を残した。
- ・ H3 初号機の失敗や、それに伴う MMX 等の打上げ遅延などはあるものの、宇宙開発の全分野において顕著な成果を確実に積み上げていると思われる。とりわけ、J-SPARC や民営化をはじめとする宇宙の産業化領域における貢献は顕著である。
- ・ 総論として、高く評価。2019 年度以降の期間においても、開発した技術の実社会での利用に対する意識付け、技術の民間移転、産業化を意識した開発、資金供給機能の展開、新たなサービス調達手法の導入等、常に新たな取組を不断に進めてこられた経営努力を高く評価。

その他、以下のような翌年度以降に向けた課題・指摘事項もあった。

- ◆ イプシロン S 開発で地上試験の異常が発生し、小型打上げ能力の回復に課題。
- ◆ MMX などの今後の大型計画における的確なスケジュール調整やリスク管理も引き続き重要。
- ◆ 国際競争力向上の観点からも、産業基盤強化や民間企業支援に組織全体としても深くコミットし、着実に成果へ繋げることが重要。
- ◆ これまで得られた知見や教訓を民間にも適切に提供し、活用を促すような組織文化の醸成や、国際的な環境変化に即した迅速な対応力に期待。

- ◆ 全体的に民営化や産業化が進んでいるため、JAXA 固有の働きが、研究開発のプレイヤーから、他プレイヤーのための活動基盤を提供する主体に変化している。各領域における寄与度は依然として高いとは思いますが、一見して分かるような工夫があるとよい。
- ◆ 文書等の作成や外交交渉における貢献、宇宙戦略基金におけるマネジメントのような、ソフト面での活動に重みをつけて評価するという手法もありうるのではないか。
- ◆ 評価として、一部大きな失敗が起きると、その他での実績があってもB評価と自己評価している印象。失敗項目については、失敗した事柄自体よりも、その年度において失敗から何を学んだかにて評価することも一案。
- ◆ 他国・民間企業と比較した技術のポジショニング、外部資金・受託件数、共同研究件数など統一した指標を設定し、各評価項目を比較できるように資料を作成してはどうか。
- ◆ 評価のしやすさの観点から、定性的な評価軸がメインではなく、定量的な評価軸となるよう、研究開発要素の高い案件は開発難易度に応じた重みづけを設定し、適正に評価できる仕組みづくりなど検討してみてはどうか。
- ◆ センサや衛星部品などは海外製品の利用に伴い国力としての研究開発能力が低下しているという声が聞かれることも多くあり、継続して研究開発における人材育成や人材確保を継続できるような仕組みづくりを期待する。